

みくびびだより

平成16年6月20日
御首神社社務所



御挨拶

謹啓 類つたう風もさわやかな初夏の候、当神社の杜も若く力強い深緑につつまれてまいりました。皆様方には色々御健勝の事とお慶び申し上げます。皆様方には愈々天皇陛下におかせられては、昨年十二月二十三日めでたく古希をお迎えになられました事は、この上ない喜びの極みと謹んでお祝い申し上げます。

先般天皇皇后両陛下には「国立劇場おきなわ開場記念公演」への御臨席と県内事情視察のため、去る一月二十三日より二十六日までの日程で沖縄県へ行幸啓遊ばされ、また宮古島・石垣島へは初のご巡幸でもあり、陛下より「五十八年前（沖縄戦）に多くの血が流れたといふことを常に考えずにはいられません」と格別の御軫念と大御心を賜りました。私どもはこの大御心に少しでも報い奉ることを常に念頭に置かねばなりません。

又、この度伊勢神宮の最大の儀式であり、且つ皇家第一の重事とされる第六十二回式年遷宮の本格的な準備が進められるのに先立ち、神宮の北白川大宮司に対し、天皇陛下より御聴許を賜りました。次回（平成二十五年）の式年遷宮は、広く国民の赤誠溢れる真心をもって御齋行されます事を切に願って止みません。

中東では、各国が復興支援に積極的に関わっている反面現地では未だにテロ活動が頻繁に起こり、尊い命が落とされれています。国を越え宗教を超えての世界平和の早期実現が切望されます。

尚、この度氏子の皆様より正面鳥居前にポールと大幟一對（上記写真）をご奉賛賜り、厚く御礼申し上げます。この大幟により、より一層のご神徳あらんことを祈念いたしたいと存じます。

最後に御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受され、益々の御健勝と御多幸を祈念いたしましたして、御挨拶とさせていただきます。

『心の遺伝』

昔の人は「子供は天からの授かりもの」と言っていました。子供は自分たちの力だけで出来るものではないし、どんな子供が出来るかは、人間の力では自由に出来ないという考えなのです。「天の授けもの」ということは「神の授けもの」ということであります。

人間の親というものは、産みの親のことを指して言いますが、中には孤児で誰か別の人が親代わりになって育てることもあります。そんな子でも親は必ずあります。

人間は神さまによってつくられたものでありますから、一般で言う親というのは、子育てのお手伝いをしたに過ぎないのです。そうなりますと、人間にとって本当の親は神さまであり、産みの親は実は、この世での仮の親と言うことも言えます。

子供は親のものではありません。神さまから子供を授かり、この



世に生きている間だけ預かっているのです。世間では、神さまから預かった子供を、そのまま自分たちの子供であると錯覚する親が大半で、そこに親と子供の不幸の芽生える要素があるわけです。

最近の新聞を見ると、毎日のように子供に対する虐待事件が報じられています。ひどいものになると、全くのエゴイズムから幼い命をも奪ってしまう親まで出てくる始末です。犬や猫でも、親は子供を危険から守り身体を張って守るというのに、これでは下等動物以下と言わねばなりません。

子供は神さまから授かったものとはいうものの、よい子供が欲しいと思うのは誰しも同じでしょう。多くの人は子供が産まれて、大きくなっていくからよい子にしようとして苦労するが、これでは実は手遅れなのです。

教育というものは、生まれてからするのでは遅いのです。幾らか進んだ人は、お腹に子供が宿っている暗からいろいろ気を付けます。これを胎教と言っていますが、これも相当に影響があります。子供が胎児の頃に両親が喧嘩ばかりしていたり、精神的な大きなショックを受けたら又、親の身勝手です。「この子は産みたくない」などと心に思っていると、それが何らかの形で子供の身体的或いは精神的な面に影響を及ぼすことはよく知られています。

胎教も出産には良い影響を与えますが、それよりも一歩進んで子供が宿る前から、夫婦お互いが良い心になって生活することが一番よいことでもあります。「よい心」というのは、神さまの心に適った心だということです。よい子供が欲しいと思ったら、まず夫婦が立派な心の持ち主にならなければなりません。

人間は遺伝作用を繰り返して、親から子・孫に体の形や性質が伝わる訳ですが、その基になるのが遺伝子(DNA)というもので、親と子はその遺伝子の並び方が同じであるといわれています。ですから親からの優性遺伝子も劣性遺伝子も、そのまま子供に受け継がれるということがあります。苦から色盲などは遺伝性があるといわれるのはそういう理由からなのです。現代では少なくなった結

核病ですが、これは伝染性のもので、遺伝とは関係が無いようにみえますが、しかし結核にかかって発病し易い体質は、ある程度親から遺伝するものなのであります。このように遺伝というものはおそろしいものですが、親と子は絶えず一緒に生活し、環境も全く同じとなりますと遺伝と同じく「こころ」も親と子では類似点も多いと云えるでしょう。たとえ子供が成長し、社会人となってからでも、長年植え付けられた「こころ」の彫刻は、簡単には削り取ることができないものです。

ところで子供というものは、だいたい親となる夫婦の心使いと同じような子供が授かるものなのです。別の言い方をすれば「親の心が子供に移る」といつてもよいでしょう。

遺伝というものは主として身体の上にも現れることが多いのですが最も重大なのは「心の遺伝」ということであります。親の心が子供に移るといふのは心の遺伝なのです。

そうなつてきますと、親の生活態度が問題となつてくる訳で、両親が紳さまの心に適った行いを通し切れれば、子供に特別高い望みや期待を持たなくても、立派に育つてゆくものなのです。反対に両親が全く無責任で、勝手気ままな振舞いを通し、他人に迷惑をかけても平気でいながら、子供には良い子になつてもらいたくないなどと思つても、そうは問屋が卸しません。紳さまは必ず人間の行為の収支決算をしておられて、決して良い結果を与えないでしょう。

世間では「子供は親の意見を聞かないが、おこないは親の通りになるものだ」とよくいいますが、要するに子供というものは、親の背中を見て育つものなのであります。

人生に行き詰まり世間から冷たくされ、不幸続きの親が子供にだけはこんな目に合わせたくはないと思う。子供は二度と親の道は通るまいと思つても、晩年になつて振り返つてみると、親と全く同じ道を通つていたという例は沢山あります。

私たちは常に親として恥ずかしくない心遣いと行動で、子供達の模範となるよう努力をしたいものです。

禰宜 上松 雅之

ちよつと一言

こんにちは、よく社頭で「おみくじは結ばなくてはならないのですか」という質問を受けることがありますので、社務所より一言申し上げます。

一般的に、おみくじは神社・仏閣で個人の運勢や吉凶を占う、或種の信仰の表れともいえます。

新年早々に引いたおみくじで、吉相が出たから縁起がよいと持ち歩く人、心願が成就するまでおみくじの内容を生活の指針とし、その後には神社へ返納される方など様々でしょう。

さて皆様はおみくじで吉凶を占つた後、如何なさるでしょうか。最近では多くの神社で境内の木々におみくじが結んである光景を目にしますが、当神社も例外ではありません。その行為は境内の尊厳を損ねるだけではなく木々の成長に支障をきたす恐れがありますので、当神社ではおみくじ結び所を設けておりません。

おみくじを結ばなくてはならないと云う決まりはございませんので、各家庭にお持ち帰り頂くか、おみくじ結び所で結んで頂き、境内の尊厳維持にご協力頂きますようお願い申し上げます。

権禰宜 大島 洋紀



祭事報告

▼年越大祓 十二月三十日午後三時
 半年の間、皆様方が知らず知らず犯された罪・穢れを人形に託し、忌み火でてお焚き上げを致しました。

▼元旦祭 一月一日午前〇時
 新玉の年を迎え、国の隆昌・世界平和・氏子崇敬者の家庭円満とご多幸を祈念し、厳肅にご奉仕いたしました。又、今年の正月は例年になく晴天に恵まれ、初詣に訪れる氏子崇敬者の方々が大変多く、社頭は長蛇の列が延々と続いていました。



▼左義長 一月十五日午前十時
 御神符を始めお守りや注連縄・縁起物等をお焚き上げる神事を、多数の参拝者の見守る中で厳肅に斎行致しました。



▼浄火祭 二月三日午前十時
 神事は厳しい寒さの中、宮司以下祭員・厄男・氏子崇敬者多数参列の下で厳肅に斉行いたしました。金幣串や紅白串・祈願絵馬・祈願帽子を厄男達が皆様方の心願成就を祈念し、忌み火で以ってお焚き上げ致しました。

▼祈年祭 二月十五日午後三時
 ▼御鋏神社例祭 三月十七日午後三時
 ▼例大祭 四月二日午後三時
 前日からの雨も午前中上がり、桜の花も満開の中、氏子崇敬者多数参列の下、例大祭は厳かに斎行され、境内では打ち囃子の奉納や特設舞台での演芸などで、終日賑わいを見せておりました。

▼南宮神社例祭 五月四日午後三時
 ▼お田植え祭 六月五日午後三時
 ▼農休み祭 六月二十日午後三時

権禰宜 高田 豊彦

厄除開運祈禱

男子 大厄 二十五歳・四十二歳
 女子 大厄 十九歳・三十三歳

古来より「大厄は諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず御家族にまでも災禍が及び、何かとままならぬことが多くなります。前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。御祈禱を受けられ、毎日を平穩に過ごしましょう。

平成16年 厄年に当る生れ年				
		前 厄	本 厄	後 厄
男子	42歳	昭和39年	昭和38年	昭和37年
	25歳	昭和56年	昭和55年	昭和54年
女子	33歳	昭和48年	昭和47年	昭和46年
	19歳	昭和62年	昭和61年	昭和60年

修祓(おはらい)について

全国の神社を始め、あらゆる祭典・神事に
おいて一番最初に行われるのが「修祓」であ
ります。修祓によって心身共に清浄無垢な姿
に変わることが出来るのです。苦から日本人
は清浄を貴び、穢れを嫌う国民性であります。
神道では「祓いに始まり祓いに終わる」と
言われているように、神事の中でこの儀式の
持つ意義は大きいものです。

祓いには「禊」と「祓い」があり、「禊」
は古事記によれば、伊邪那岐命は伊邪那美命
が黄泉の国へ赴かれた時、穢れに触れた為に
筑紫の日向の阿波岐原(九州地方)で祓をさ
れたのが始まりで、「祓い」は須佐之男命が
高天の原で犯した罪を購うために、身につけ
ている物だけでなく髭・手足の爪までも差し
出したとあり、これが祓いの起源とされてお
ります。

祓いの形には二通り有り、一つは神話のよ
うに犯した罪・穢れに対して罪の代償物を差し
出し、神様に許しを乞う形で、現在全国で行
われている夏越・年越大祓で人形や木綿など
を用いるのは「祓い」の名残です。そして祭
典前に行う祓いに塩水を用いるのは、潮水で
身を清める「禊」の思想の形式化と見られま
す。従って現在の修祓(おはらい)は禊と祓
いの合同形であると言えます。

又、修祓の時に奏上する祓詞(はらへこと

ば)のご祭神は瀬織津比売神・速開都比売神
・気吹戸主神・速佐須良比売神で、この四柱
を総称して祓戸の神と申して、大祓詞を正式
といたしますが、特殊な神社を除いて一般神
社の祭典では祓詞で行われています。

皆様が修祓を受けられる時は、最初に神職
が祓詞を奏上します。この間は両手をひぎの
前について、深い礼の姿勢をとります。椅子
の場合は立ち上がり、頭を下げ同様に深い礼
の姿勢をとります。祓詞の奏上後、一度姿勢
を戻します。次に手をつけて四十五度の姿勢
のままでお祓いをお受け下さい。このように
心を引き締め姿勢を正して頂ければ、なお一
層のご神徳が頂けることと思えます。

権禰宜 大野 弘樹



崇敬会入会のご案内

入会の方法

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬され
る方は、どなたでも入会出来ますので御参拝
の折、社務所にお申し出下さい。尚、郵便に
ても受付出来ますので、申し込み用紙を御請
求頂ければ、お送りさせて頂きます。お申し
込みされますと、神前にて入会報告祭が執り
行われ、会員証・認定状等が交付されます。

会員の特典(抜粋)

- 一、個人会員 三千元以上お志し
- 一、家族会員 五千元以上お志し
- 一、特別会員 一万円以上お志し
- 一、法人会員 二万円以上お志し
- 一、名誉会員 三万円以上お志し

会員の特典(抜粋)

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈祷が行われ、神符が授
与されます。
- 一、春の例大祭、秋の崇敬会大祭にはご案内
申し上げ、大祭特別祈祷神符及びお供え
等が授与されます。
- 一、夏越・年越大祓にはご案内申し上げ、ご
祈祷致します。
- 一、参拝の折、会員証を御呈示になられます
と、会員の方は昇殿参拝が許されます。

祭事案内

- ▼西宮神社例祭 七月 十七日午後三時
- ▼末廣稻荷神社例祭 八月 八日午後三時
- ▼夏越大祓 八月 八日午後三時半

大祓とは、日々の生活に於いて知らず知らず受け犯している罪や穢れを祓い清めて、厄災を逃れ幸福を得むとするもので、当社社では皆様方が半年間に身に受けた罪・穢・災を祓い清めていただくため、夏越大祓を厳粛に斎行致します。

大祓式に引き続き、お祓い所役を先頭に宮司以下祭員・総代・一般参列者の順に茅の輪を左右左上くぐり、最後に拝殿前まで進み拝札をして頂き、神事を終了いたします。



尚、茅の輪くぐりの神事は午後三時半から五時頃まで行っておりますので、ぜひ御参加頂き、罪穢れや災いを祓い清め、健康で暑い夏を無事に過ごして頂きたいと思っております。

又、夏越大祓の人形につきましては、社務所にご覧いただけますので、ご自由にお持ち頂きまして、七月二十五日迄に郵送又は社務所迄ご持参下さいますようお願い申し上げます。

人形（ひとがた）について

- 自分自身の身代わりとして 人形に罪穢れを託す
- 人形で身体を撫でる
- 息を三度吹きかける
- 住所・氏名・年齢・性別をお書き下さい

- ▼長寿祈願 九月 十五日午後四時
 - ▼神明神社例祭 十月 十七日午後三時
 - ▼七五三参り 十一月 一日〜三十日
- 七五三参りは、日本古来の人生儀礼の一つで、子供の成長過程で三歳・五歳・七歳の節目に、無事にその年を迎えられた事を大神様に感謝申し上げ、これから、の御守護を戴くお祭りであります。

当神社では、子供の無事成長と今後の御守護を祈願する七五三のご祈禱を、十一月一日より三十日の間、午前九時から午後五時まで随時執り行っております。

又、十四日の日曜日にはコリントゲームや写真撮影も行われ、終日賑わいます。



- ▼崇敬会大祭 十一月 三日 午後二時
 - ▼新嘗祭 十一月二十三日午後三時
- 崇敬会大祭は、御首の大神様に無病息災や家内安全等の御守護を戴く、崇敬会会員の一年に一度の大祭です。
- 当日、御参列いただいた皆様のお名前を一人一人御神前にご報告申し上げます、金幣串を奉つていただきます。
- 権禰宜 永井 雅和

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一二八三の一
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇

ホームページ www.mikubi.or.jp
Eメール syannusyo@mikubi.or.jp